

1 大会概要

主 催：アジア・オリンピック評議会（OCA）
 開 催 年：4年に1度（夏季オリンピック競技大会の中間年）
 会 期：最大16日間
 参加国・地域：OCA加盟の45の国と地域



(参考) 過去大会等の概要

回	開催年	開催地	開催国	実施競技数	参加国数	参加選手数
1	1951	ニューデリー	インド	6	11	489
3	1958	東京	日本	13	20	1,820
12	1994	広島	日本	34	42	6,828
16	2010	広州	中国	42	44	9,704
17	2014	仁川	仁川	38	45	9,501
18	2018	ジャカルタ・パレンバン	インドネシア	40		
19	2022	杭州	中国			
20	2026	愛知・名古屋	日本			

※OCA（アジア・オリンピック評議会）webサイトを基に作成

2 アジア競技大会の特徴

- ・オリンピック競技に加え、アジアならではの競技（カバディ、セパタクローなど）を実施しており、オリンピックよりも競技数が多い。
- ・参加する各国・地域の選手団は約15,000人であり、オリンピックに次ぐ人数。

(参考) その他参加者（仁川大会実績）

観戦客：約152万5千人
 メディア：約7,300人
 ボランティア：約11,200人

3 愛知・名古屋大会について

(1) 概要（大会開催構想より）

会 期：2026年秋の16日間と仮定
 実施競技：36競技と仮定

【オリンピック競技】
 アーチェリー、水泳、陸上、バドミントン、バスケットボール、ボクシング、カヌー、自転車競技、馬術、フェンシング、サッカー、ゴルフ、体操、ハンドボール、ホッケー、柔道、近代五種、ボート、ラグビー、セーリング、射撃、卓球、テコンドー、テニス/ソフトテニス、トライアスロン、バレーボール、ウェイトリフティング、レスリング

【東京オリンピック追加競技】
 野球/ソフトボール、空手、スポーツクライミング

【非オリンピック競技】
 ボウリング、クリケット、カバディ、マーシャルアーツ（柔術、武術太極拳、プンチャック・シラット、クラッシュ、サンボ）、セパタクロー、スカッシュ

メイン会場：瑞穂公園陸上競技場
 選手村：名古屋競馬場移転跡地に整備予定
 ※選手村から遠方の競技会場については、会場近くのホテル等に分散させる
 各国・地域選手団：約15,000人を想定

(2) 愛知県内における経済効果

○前提条件

直接支出額：1,116億円（①+②）
 ① 大会主催者負担経費：850億円
 ※周辺インフラ・交通インフラの整備費用は、大会開催を前提とした整備予定が算出時点では予定されていないため算入せず。
 また、競技会場仮設費を除く施設整備費についても未確定のため算入せず。

② 観客・選手等消費支出：266億円

大会関係者及び観戦客：155万3千人
 選手・関係者：2万8千人（VIP、審判員、メディアを含む）と設定
 大会観戦客：152万5千人（第17回アジア競技大会（韓国・仁川）実績）

○経済効果

(単位：億円)

経済効果全体	内訳		
	直接効果	第一次間接波及効果	第二次間接波及効果
1,625	942	375	309

※内訳は、端数処理により合計額と一致しない